

# 創刊の辞

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館は、昭和40年3月に鳴門市撫養町の妙見山に開館した徳島県立鳥居記念博物館を前身とし、50年近い活動の後、平成22年11月3日に新たに文化の森総合公園内にオープンいたしました。

平成23年度には、特別陳列「鳥居龍蔵の見た北東アジア」、企画展「鳥居龍蔵の見た台湾」を、平成24年度には、特別陳列「鳥居龍蔵とアイヌ—北方へのまなざし—」を開催し、それぞれギャラリートーク、記念講演会や記念シンポジウムなどを行いました。収蔵資料の整理につきましても、大量の資料を前に、徐々にではありますが着実に進めておるところです。

年報、展示解説、企画展パンフレットなどの発行も順次行ってきました。研究報告については、今回ようやく刊行することとなりました。博物館の学芸員が進める資料整理の成果や、作業を進めるなかで発見した事実などの報告を中心として、基本的には徳島県立鳥居龍蔵記念博物館の事業に関わる内容で構成していければと考えています。

研究報告を創刊するに当たり、鳥居龍蔵による城山貝塚の発掘を特集しました。とりわけ、鳥居龍蔵自身による報告が未刊行のままであったので、調査時に撮影したと思われる写真とその裏書きメモや台紙への書き込みをあわせて紹介することとしました。今後、より内容の検討を深めていきたいと考えています。徳島における鳥居龍蔵の記念すべき発掘調査の業績を取り上げることができ、少し安堵しております。

また、北海道大学大学院の吉開将人氏には開館記念講演会に関連した内容をご寄稿いただきました。心より感謝申し上げます。

研究報告を刊行することができ、開館2年が過ぎてようやく博物館としての体裁が整って参りました。博物館資料に基づく調査研究をしっかりと継続していきたいと考えています。今後とも温かく御指導、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

徳島県立鳥居龍蔵記念博物館

館長 高 島 芳 弘